

産業論文のこれまで5年間の成果と査読管理システムの仕組み

岩村 忠昭*

Five Years Activities and Editorial Management System of the SICE Editorial Committee of Application

Tadaaki IWAMURA*

Abstract: In 2002, SICE inaugurated the "Editorial Committee of Application". The committee has published some 60 articles last 5 years, and has been acknowledged of its importance in SICE.

The committee's highest priority is to evaluate articles by contribution and usefulness to the actual industrial fields and/or to the business world. The distinctive feature of the committee is utilizing "Information Technology" in its editorial managements.

This report explains and evaluates the committee's activities and editorial management system.

Keywords: SICE editorial committee of application, editorial management, data base, client-server system

1. まえがき

計測自動制御学会 (SICE)の産業論文委員会は、2002年1月に発足し、すでに6年目に入る。2007年4月現在、約120件の原稿が投稿され、その中で60件が採択されている。

産業論文設立の最大の目的は産業界に有用な研究活動を評価することであり、さらに極力その査読期間を短縮すること、そのためにAE (Associate Editor) 制度による査読および評価の仕組みを作ることであった。その実現のために、原稿の投稿・査読・掲載・閲覧全てにWebを活用した仕組みを発足当初から導入した。さらに2005年からはその査読管理自体もWebベースで行なうよう査読システムを作成し、いくつかの改善を経て現在に至っている。

本報告では、産業応用論文の設立意図とその成果をこの5年について振り返り、IT活用の仕組みに関してもその概要を説明する。その上で今後の産業応用論文の在り方を考察し、IT技術の学会運営への活用についても言及する。

2. 産業論文設立の意図と仕組み

2002年計測自動制御学会論文集委員会では新誠一委員長を中心に、学会の改革に対応した同委員会の改革が検討された¹⁾。改革に伴う主な実施事項は以下のとおりである。

- (1) 学会の産業界への貢献を明確にするために、新たに「産業論文集」を発刊する。
- (2) 学会の国際化に対応するため「英語論文集」を発刊し、「論文集」の中から査読者の推薦で選ばれた優秀論文を掲載する。
- (3) 従来の「論文集」の査読方法の改善により、1年以内に査読が完了してきているが、さらにその短縮の努力を進める。

そして、新たな発刊を見た「産業論文集」の主な特徴は以下のとおりである (規約は巻末参考資料I参照)^{1) 2)}。

- ① 採録基準の最優先順位として、論文の産業界への貢献を第一とする。
- ② 査読にAssociate Editor 制度を取り入れ、原稿毎の査読に対して責任者を明確にし、極力「見える化」を図り、かつ査読期間を短縮する。
- ③ 原稿の投稿から、査読、掲載に到るまでWebを用いた電子ジャーナル化を図る。
- ④ 論文のカラー化や動画などのオブジェクトの利用により、表現の自由度の拡大を図る。

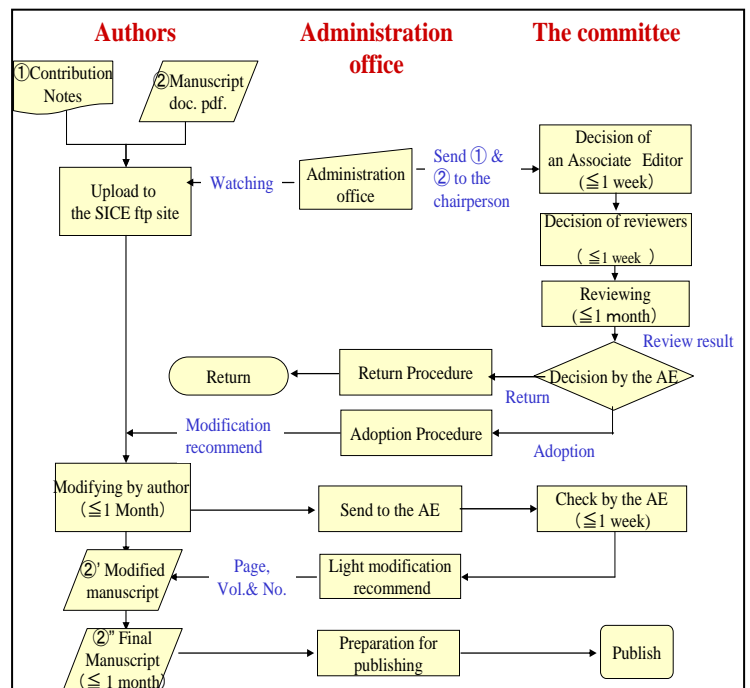


Fig.1 Basic procedure of the article review

*2004年 産業論文委員会委員長

*Chairperson of SICE editorial committee of application (2004)
(Received May 14, 2007)

Fig.1は原稿の投稿から査読、ならびに掲載（返却）までの手順をフローチャートの形にまとめたものであり、原稿の投稿から掲載（公開）まで、最短で1.5ヶ月、著者に戻しての修正がある場合でも4ヶ月を狙っている。

原稿は著者の意図、ならびに委員会の査読判断により、つぎの3種類に別れる。

- (a) 論文：産業界への優位性を第一優先とし、新規性ならびに客観性を十分に持つ論文。
- (b) ショートペーパー：計測・制御・システム・情報などの産業に関係のある新しい着想や所見、および研究速報。
- (c) 開発・技術ノート：計測、制御、システム、情報などの産業に関係のある有用な技術や手法の紹介。

3. 産業論文委員会の活動実績

3.1 委員会の動き

Table 1に委員会発足後の主な動きをまとめる。

- (1) 投稿論文数は25件/年程度であり、採録率は60%に達していない。当初に比べ採録率は低下している。
- (2) 特集企画は投稿論文数の増加を狙ったものであり、現在までに「MEMSセンサ特集」と「自律分散特集」がある。
- (3) 当初委員会は運営委員のみであったが、SICE各部門代表の参加を依頼し、AEをプールするためにAE委員会を設けた。
- (4) 会誌に「産業論文集コーナ」を設け、産業論文の周知と採録論文の抄録掲載を行なった。
- (5) 委員会の管理ならびに査読状況の管理とデータベース化を行なうため、「産業論文管理システム」の作成とオンライン運用をおこなった（後述）。
- (6) 原稿の修正や改善のための著者とAEのやり取りに時間を消費することが多く、それを短縮するための査読手続きの改善を行なった（「再投稿推奨」など）。

Table 1 Activities of the Committee

Year	Chairperson	Total articles	Adopted Articles	Event
2002	Seich Shin	7	5 (71%)	Committee start.
2003	Toshiaki Ito	20	12 (60%)	Planning of special issue
2004	Tadaaki Iwamura	23	12 (52%)	AE committee start. Report to the Journal of SICE start.
2005	Shinji Aoshima	31	17 (55%)	Committee management system start.
2006	Tsutomu Ohmae	27	14 (52%)	System & review procedure modification.
2007	Yoshitatsu Mori	8		(~April 2007)
2002~2006		108	60 (56%)	

3.2 投稿論文の状況

発足後の投稿論文の状況をFig.2に、採録論文の状況をFig.3に示す。

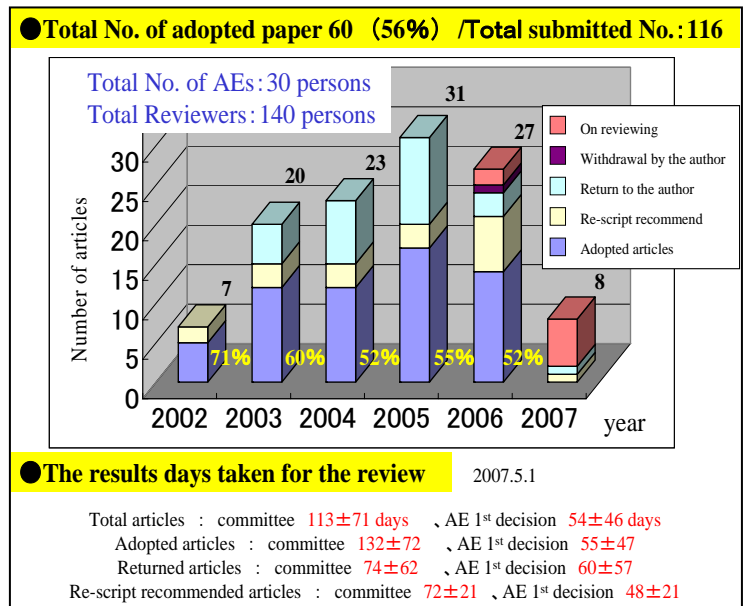


Fig.2 Several Data about the articles and the review

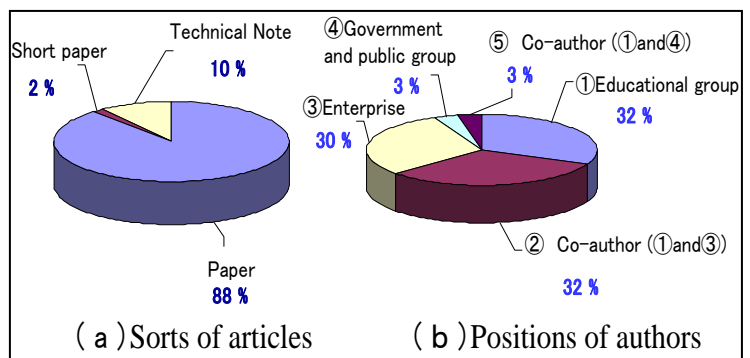


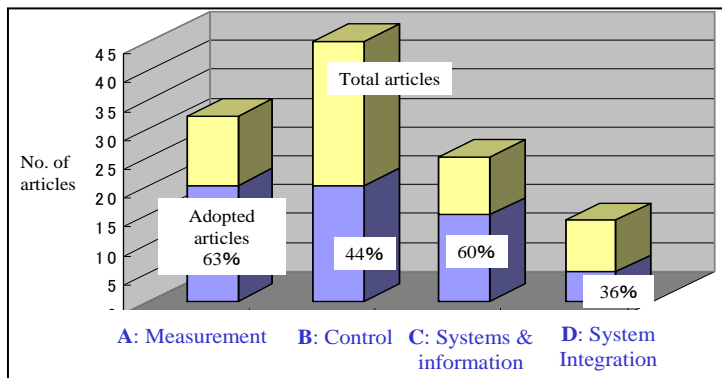
Fig.3 Situation of the adopted articles

- (ア) 投稿数は安定してきているが、採録率が最近低迷気味である。
- (イ) 5年で約30名のAEと140名の査読者の方々にお世話になり、産業論文そのものの認知度は向上してきている。
- (ウ) 後述するが査読所要期間が期待より長く、担当者（AE）によるばらつきが非常に大きい。事務局の強化により、最近では改善されつつあるが、いまだ当初の期待値には遠い。
- (エ) Fig.2の委員会処理日数は投稿から処理完了まで、AE一次処理日数はAEへの依頼から一次判定までの日数を示している。掲載（採録）論文で両者の差が大きいのは一次判定後の著者とのやりとりや事務処理に時間がかかっているからである。
- (オ) 原稿種類では論文が圧倒的に多いが、研究速報的な意味でのショートペーパー、技術的情報提供の意味での開発・技術ノートをもっと気安く投稿できる仕組みが欲しい。
- (カ) 投稿元は学校・企業・官庁・あるいは共同とバランスが比較的とれているが、企業よりの投稿が産業応用の観点から期待したほどは伸びていない。

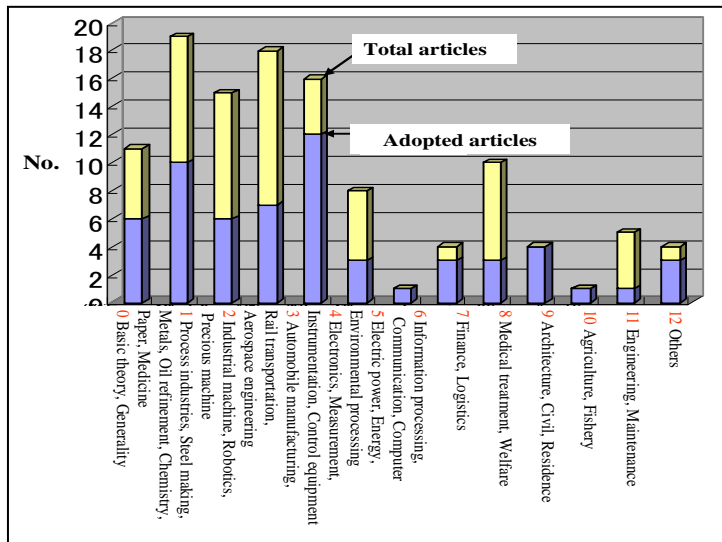
3.3 投稿論文の内容

Fig.4に投稿および採録論文の内容を示す。

- (a) 部門別ではSystem Integration関係が少ないのは予想外であるが、バランスは比較的取れている。
- (b) 応用分野別では、電力・エネルギー関係や、情報処理・計算機関係、エンジニアリング・保全関係が期待より少ない。



(a) Data for every technical division



(b) Data for every application areas

Fig. 4 Contents of the articles

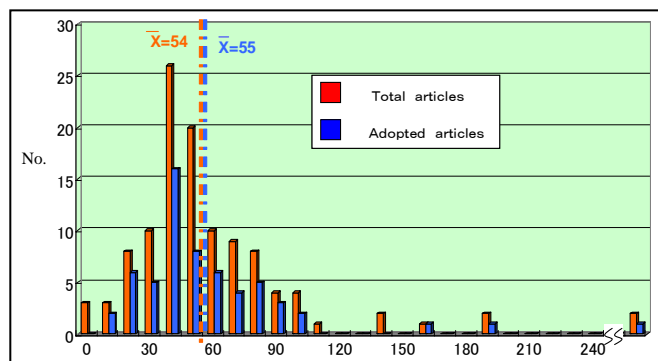
3.4 査読処理の状況について

3.1でも述べたが、査読期間のばらつきが大きく、処理時間が当初の期待を大きく下回っている。Fig.5に所要日数の詳細を示す。

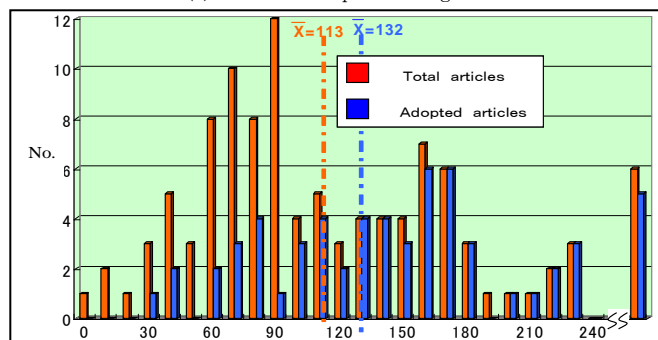
- ① AE一次処理は比較的ばらつきも小さく、処理期間も長くはないが、期待値である1.5ヶ月には達していない。また極端に時間を要している例が散見する。
- ② AE一次処理の時点においては、採録と非採録では処理時間に差はない。
- ③ 委員会処理日数が非常に大きく、またばらつきが大きいのは、AE一次処理終了後の事務手続き、あるいは著者とのやり取りに多大な時間を消費しているためである。
- ④ 当初の査読判定が「採録」か「返却」だけであったため、内容的

に採録水準にある原稿で体裁などが水準以下のものを救済するのが難しく、著者とのやり取りで時間がかかる場合が多い。そのため「再投稿推奨」の判定を新たに設けて、著者のリカバリ処置を可能としつつ、今回の査読は終了できるようにした。

- ⑤ さらに一次判定で「採録(要修正)」の場合のみ、著者とのやり取りを継続するようにし、極力査読が尾を引かないようにしているが、このレベルの原稿がもっとも多く、まだ抜本的な改善にはいたっていない。



(a) AE 1st processing



(b) Committee total processing

Fig. 5 Results days for the review

4. 産業論文査読管理システム

2002年の発足時から、Fig.1に示した手順に従って、原稿の投稿・査読・掲載はWebベースで行なっていたが、査読経緯は事務局担当者のパソコンに記録されるだけであり、その情報の共通化や共有化がなされていなかった。本章では2005年よりオンライン化した査読管理システムについて略述する。

4.1 査読管理システム導入の経緯

上記の管理方法の不備は投稿論文の増加と共に顕在化し、担当AEによる処理や判断の不一致、査読進捗状況情報の事務局担当者への偏在が目立ってきた。このままでは委員会活動、および査読経緯の不透明さを産む恐れがあると思われた。また委員会の集まりはできるだけMailで済ませるようにしていたため、全委員の中での情報の共有化がされ難く、また事務局担当者と委員長および幹事などの少数の関係者のみで委員会が運営されることが多くなる。そのことが委員会を少数の関係者のみで私物化しているという誤解を生む可能性もあった。

そのため 2004 年委員長と事務局担当者が共通のデータベースを持ち、オフラインベースでその共有化を試行した。そのとき使用したソフト (FileMaker Pro™) の Web 機能が翌 2005 年に大きく改善されたことを受けて、Web を利用したオンラインベースの査読管理システムを試行した。

2006 年システムの対象を産業論文委員会の委員全員に拡張し、何回かのバージョンアップを経て現在に至っている。

4. 2 管理システムの概要

Fig.6 に管理システムの概要を示す³⁾。

同図で左側の「既存システム」が開設以来の産業論文用のサーバーであり、右側が管理システムである。サーバーは学会 IT システムの開発管理を担当している学会ネット(株)のご協力により同社内に設置している。同サーバーは事務局担当者と委員会担当者(筆者)は Remote LAN で接続(ソフト開発およびシステム保全会用)し、委員長をはじめ全委員とは Web で接続している。通常時は Web 上のクライアントサーバーシステムとして運用する。

Web は FileMaker 社の Instant Web を使用しているが、ブラウザは「Internet Explorer」や「Safari」などの一般的なものが使え、応答も特殊な画面を除いては十分実用に耐える範囲になっている。

上記学会ネット社のサーバーを使うことにより、セキュリティが高度なレベルで保証される。委員に対しての閲覧制限はアカウントとパスワードで行なっており、基本のご自身が AE として担当している原稿のみを閲覧する形となる。したがって査読者の名前や判定詳細情報は他の AE にはオープンとはならない。

4. 3 管理システムの2大機能

管理システムは Fig.7 に示すように以下の2機能がある。

(1) 「査読論文」管理機能

原稿の投稿から査読および掲載に到るまでの進捗状況を管理し、その経緯をデータベースとして蓄積する。また査読の各ステップにおいて関係者間でやり取りする文書を標準文書として用意しており、その作成や保存の自動化をサポートしている。

また査読中の原稿を本システムからダウンロードできる (Web で可能) のも特長の一つである。

(2) 「産業論文委員会」管理機能

これはさらに 2 機能に別れ、一つは委員会メンバーの名簿と査読活動記録であり、論文管理システムとリレーショナルにリンクしている。もう一つは 委員会管理機能である。委員会自体の備忘録的機能であり、本システムスタート後の委員会活動 (Mail 会議を含めて) がすべて議事録の形で記録されている。

この部分の閲覧は全委員に開放されており、委員会の運営が少数の委員の活動に限定されることなく、いつでもどこでも全情報が共有化されるよう機能している。

(1) の機能は論文査読関係者 (委員長, AE, 事務局担当者) における査読対象の情報共有の場を提供し、(2) の機能は全委員に委員会運営の情報共有の場を提供する。各クライアントがそれぞれの職場や家庭で本システムの情報を共有化することが可能であり、特に一つの場所に集合することなく、学会活動を展開する基盤が整えられている。

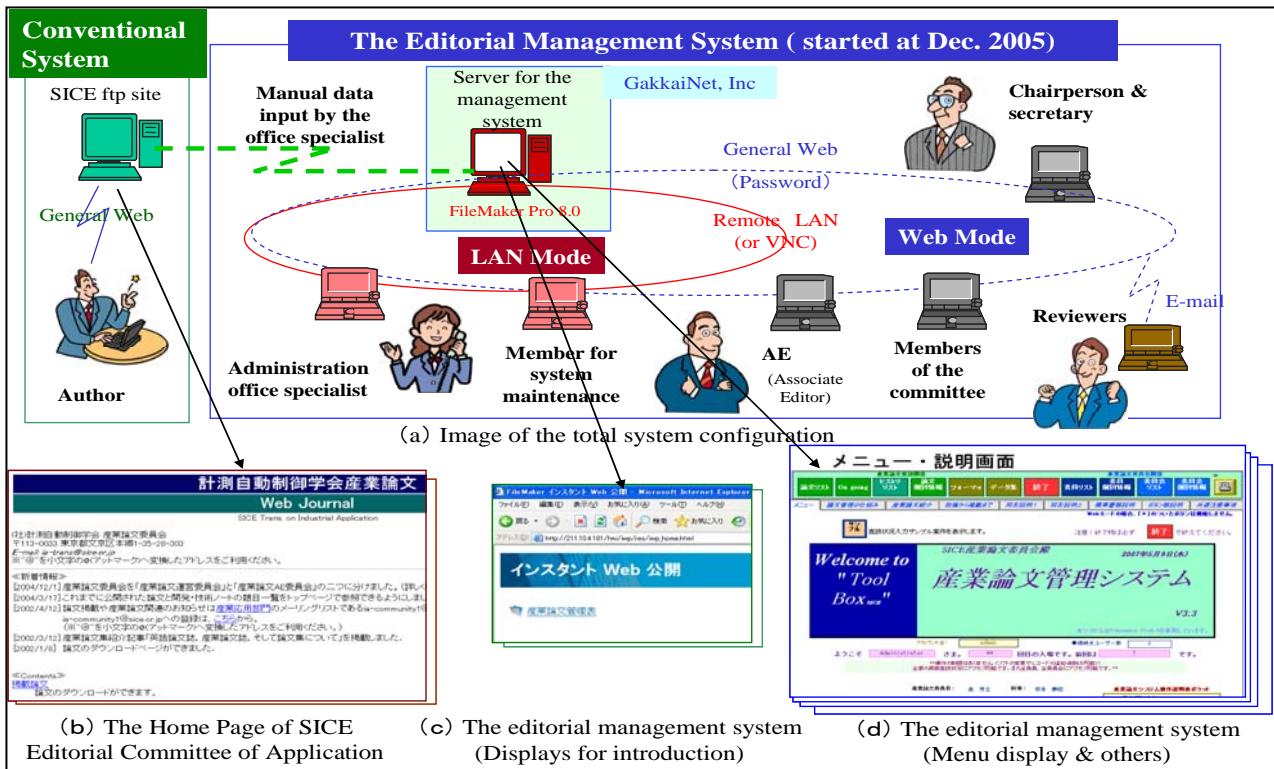
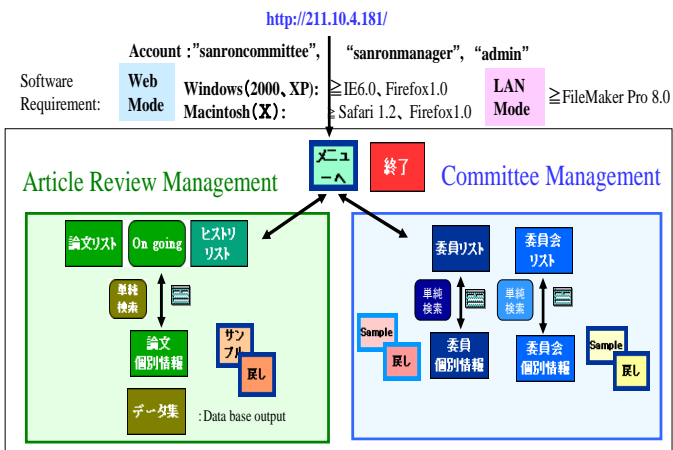


Fig.6 Total configuration of the editorial management system



(a) Review management (b) Committee management

Fig.7 Two main functions of the system

4. 4 査読論文管理機能の内容

主機能である「査読論文」管理機能についてももう少し詳しく説明する。

(1) 原稿投稿および原稿査読状況の概況表示

両者の全体感を掴むためのものであり、「論文リスト」は投稿論文の原稿内容と査読状況を示し、「ヒストリカルリスト」は各投稿原稿の査読推移がカレンダーで示される。

「On going」により現在、査読の仕掛かり中の原稿が、「全表示」により論文全体が示される。もちろん、検索機能とソート機能により希望のリストが作成できる。

Fig.8 は一例であるが、2007 年に投稿された案件のヒストリカルリストであり、これは今年の本委員会のアクティビティの報告でもある。委員長をはじめ委員会の幹部はこのリストだけで、原稿投稿全体の推移や各原稿の査読推移を把握でき、委員会全体として原稿の投稿数の伸びが把握できるか、査読の AE に対する依頼が少数の人に偏っていないか、また各既投稿案件の査読推移が把握できるか否かなどを一目で把握できる。

(2) 原稿個別詳細情報

「論文リスト」や「ヒストリカルリスト」から「原稿個別詳細情報」にワンタッチで跳ぶことができる。これを閲覧できるのは基本的には担当 AE だけであり、a. 各投稿案件の原稿主要情報、b. 査読状況の推移、c. 査読の各手順での関係者への連絡のための標準書類、d. AE や査読者の評価と判断、e. それに対する著者の応答や修正内容などがデータベースとして蓄えられる。

投稿原稿毎の査読推移状況は Fig.9 に示す遷移図で管理される。Fig.1 に示した基本の査読推移を 5 年の経過での問題点を吸収するためにいくつかの改造を行なっている。査読経緯は 11 のステータスと 16 のマイルストーン日付 (省略) で管理される。

また、標準書類は 13 用意されており、その存在が査読管理の共通化と作業時間の短縮に寄与している。

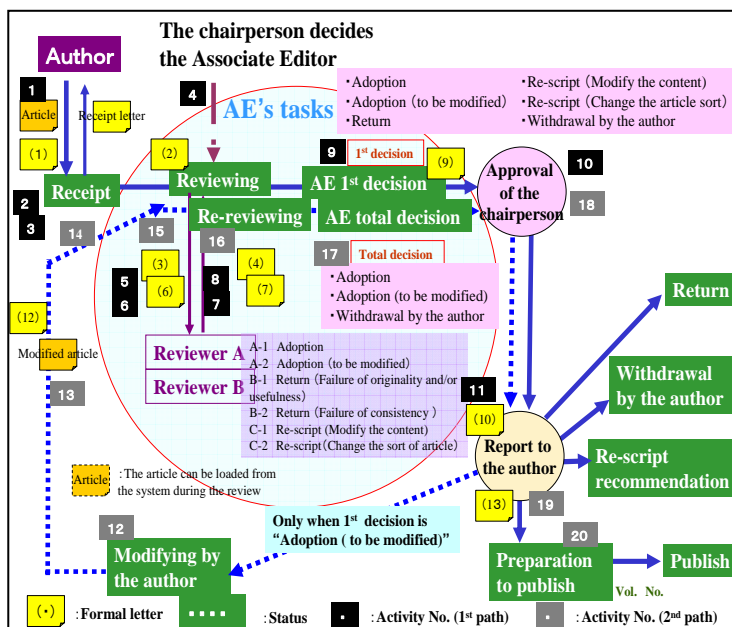


Fig.9 The status transition during the article review

1	117	全論文	2007年05月09日	☆:著者投稿、□:受付、◇:AE依頼、=:査読者査読中、◆:AE判定、◎:委員長了承、★:著者へ回答、▶:著者修正、◀:掲載準備中、■:掲載 (紫色:受付のみ、赤:査読中、紺:事務処理中、黒:掲載、青緑:再投稿、緑:返却、紫:取下げ)	論文個別情報	On going	論文リスト	終了	最終検索	ヒストリカルリスト	受付履歴		
2006/06/01	受付番号	ステータス	06/06/01	論文題目	06/08/01	06/10/01	06/11/30	一次判定	07/01/30	Val.No	AE名	2007/05/31	チェック
1	07IA008	返却		ダイオキシン分解ー塩化物フィルムのキルン-異イ化理				返却			委 芳立		1
2	07IA007	査読中		陸上移動体航路のためのGPS播替1号利便性の性能評価							委 本 隆		2
3	07IA006	査読中		交通流データの活用による産業動化機および二酸化炭素排出量削減に向けた							新 誠一		3
4	07IA005	著者修正中		水ラインでのデジタル成墨用送墨器による墨圧電の節減効果				採録(要修正)			中村 賢二		4
5	07IA004	掲載準備中		空気圧降上コントローラの加速補償を用いた播替速度制御				採録(要修正)		6巻 7号	大前 力		5
6	07IA003	査読中		Development of High Speed Oblique X-ray CT System for Printed Circuit							養 嘉彰		6
7	07IA002	著者修正中		Effects of Passenger's Arrival Distribution to Double-deck Elevator Group				採録(要修正)			小坂 洋明		7
8	07IA001	再投稿推奨		連続時間一般化制御による改善策のロバスト性評価				再投稿(大幅修正) 再投稿(大幅修正)			香川 利春		8

Fig. 8 An example showing the committee activities by the “Calendar style display”

(3) データ集

上記のデータベースを利用して、委員会活動の紹介用出力画面をいくつか用意している。全採録論文一覧(参考資料Ⅱ)、産業論文委員会一覧、委員会現状データ一覧(参考資料Ⅲ)、査読者一覧、キーワード一覧などが主なものであり、閲覧者全員に最新データが提供される。

データの出力はLAN ベースの場合、Excel などへのエクスポートが自由にできるため、さらに複雑な出力をオンラインベースで得ることができる。本報告の Fig.2~5 のデータは本報告作成時点の最新データを Excel で編集したものである。

4.5 本システムの特長

データベースとしての主な特長を以下に列記する。

- (1) LAN および Web ベースでの機能の共用が可能。
- (2) ソフトの作成と保全に特殊な専門性が不要。
- (3) Web ベースの場合、クライアント側に特殊なソフト不要。
- (4) クライアント毎に非閲覧期間の状況推移が確認できる機能(「留守番機能」)を持つ。
- (5) 文書(投稿原稿・操作説明書)や File のオンラインダウンロードが可能。
- (6) 査読に必要な各種標準書類(テンプレート)を内蔵。
- (7) 上記テンプレートをソフトレスで変更可能。
- (8) Web ベースでも各種ダイアログ機能を持ち、その内容もソフトレスで変更可能。
- (9) サンプルによる教示機能の充実。
- (10) Remote LAN を利用した遠隔保全が可能。
- (11) サーバーとして特殊なあるいは高価なハードが不要。
- (12) File 転送機能を活用したサーバーの Back up および File 保全機能を複数持つ。

5. 産業論文および査読管理システムの現状の評価

発足後 6 年目に入り、計測自動制御学会の独特な機能として定着しつつあるが、一面いくつかの批判もある。産業論文および査読管理システムに分けてそれぞれの現状での主な評価を示す。

5.1 産業論文に関する評価

- (1) 産業界への寄与を評価の最優先とする仕組みの登場を歓迎する会員は多いが、投稿原稿の評価がそれに沿ったものに必ずしもなっていない。
- (2) 産業界への寄与を明確に記した原稿が必ずしも多くない。また、原稿としての質に不満が残るものが少なくない。
また、産業界への寄与を定量的に評価できる仕組みが存在せず、その評価の基準が担当者により異なる。
- (3) SICE の部門の一つである「産業応用」と本「産業論文」の名称が以ており、また活動も本質的に似た部分があるため、会員から紛らわしいとの批判がある。

(4) 5 年の中での委員会活動により、本委員会の目指す所は会員への周知がかなり進んだが、前項の問題もあり、その存在を知らない会員がまだ存在する。

(5) 投稿論文の査読の効率化を大きなターゲットとして出発したが、担当者の忙しさが壁となり、必ずしも満足した数字を得ていない。担当 AE によるばらつきが非常に大きく、事務局担当者の努力にも限界が感じられることが少なくない。

(6) Web ベースの論文であることを活用した原稿、たとえば動画やビデオの活用が期待されたが、現時点ではカラーの活用がせいぜいであり、その面での期待は大きく外れている。

(7) 2005 年に採録数が 40 件を越えた時点で、全論文を掲載した CD を発行したが、その売り上げは芳しくない。これらの処置を含め、「産業論文」の存在感がまだ大きくないことは否めない現状である。

いずれの問題も産業論文そのものの SICE 中における位置づけと存在意義の問題である。発足後 6 年目に入り、その存在が定着してきているが、学会活動全体の見直しの中で再度議論することが必要と思われる。SICE 全体の IT 化やグローバル化が進む現時点で、統合や仕組みの共同化を再度検討する時期が近づいていると思われる。

5.2 査読管理システムに関する評価

- ① システムが積み木細工的、あるいはサブオプティミカルに膨れ上がったものであるため、全体感が見通しにくいものになっている。
- ② 利用すべき AE にとって、利用の機会が限られており、そのためシステムに精通する機会が限られる。したがって肝心の利用時、システムに精通していないがためのトラブルが生じる。
- ③ IT 技術に慣れている委員にとって本システムの違和感は少ないが、委員によってはみずからの操作への拒否感が強い場合がある。
- ④ 何度かの改造により、処理の高速化が図られたが、特殊な画面では Web モードでは処理に時間のかかるものがあり、それがシステム全体の足を引っ張ることがある。
- ⑤ 企業や大学あるいは官庁においては、Web モードのリンクにセキュリティ上の理由から制限を設けることがある。それが本システムの応答性や使いやすさの障害となりうる。
- ⑥ 2006 年より事務局担当者を強化することで、問題点をカバーしており、全体の運営が非常にスムーズになった。しかし、まだ AE の個人差を消しきれていない。
- ⑦ 現在 SICE は学会運営の IT 化を強力に進めている⁴⁾が、本システムはそれを先行する形での試行となった。本システムは委員会運営の本質の部分にも一部入り込んでおり、その「是非」を含めた議論を行なう必要があると思われる。

委員会運営にまで踏み込んだシステムとして、また学会活動そのものを自動的にデータベース化するシステムとして、非常にユニークな存在であり、レベル的にも高い所に到達している。

ただし、クライアントとのやり取りの洗練さや、システムそのものの応答性で未熟な部分があるのは否めない。ソフト作成の専門家への移管、より高度なソフトの採用など、解決の方向は判っているが、後述する学会運営のIT化の一試行の立場から費用面の問題もあり、現時点ではこれ以上の踏み込みは避けた。

次項に示す学会管理IT化の全体感の中で今後を決めて行きたい。

5.3 学会管理のIT化との整合

2004年、本管理システムの構想およびプロトタイプ作成時から、寺野委員を中心に、SICE学会活動のIT化が進められていた⁴⁾。両者の整合をどうとるかには課題であったが以下の理由により、独立に進めることになった。

- (1) 産業論文のシステム化は緊急の課題であり、全体システムは全体的整合性を取りながら慎重に進める必要がある。
- (2) 産業論文のニーズは、独自のものがあり、それが全体システムと必ずしも一致しない。
- (3) 予算的に産業論文のシステム作成が用意されていなかったため、ボランティア的活動に頼らざるを得なかった。

Fig.10に学会活動全体のIT化を模式的に示す。

同図(a)は全体完成時のイメージであり、学会共通のデータベースa.と個別活動のデータベースb.群、さらには個別活動サポートのソフトc.群からなる。本産業論文管理システムはこのb.+c.の一つであり、一部がa.の共通データベースと重複している。したがって、まず整合を取ることで必要なことは、データベースの整合とb.+c.への嵌め込みである。

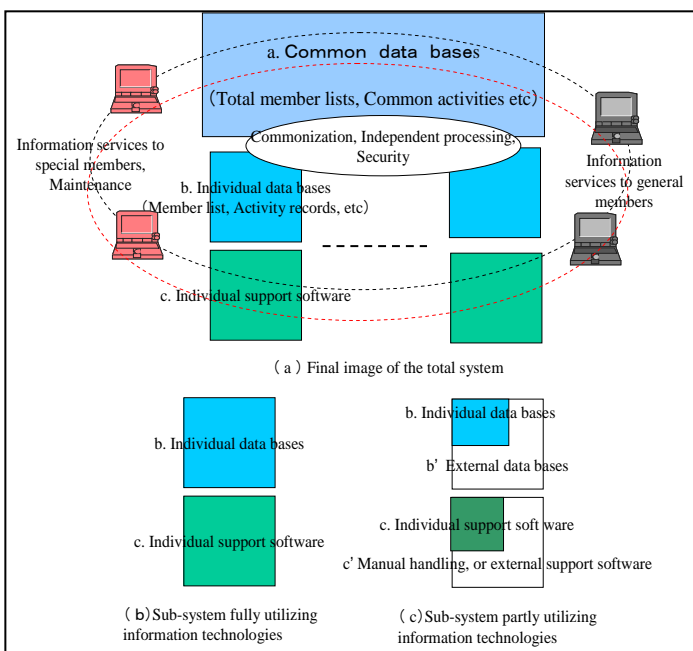


Fig.10 Integration to the SICE total management system

その場合、各クライアントへのサービス(伝送・端末)の問題を先ず解決(統一化)する必要がある。

同図(b)および(c)は各サブシステムのIT化の度合いを模式的に示したものであり、産業論文システムの場合は(b)の活動全体をIT化している。

5.2でも述べたように、IT化をどこまで進めるかは、ユーザーのIT化に対する慣れの問題もあり、また各サブシステム担当者の意見の相違が必ず生まれる。

本システムを他のサブシステムに応用するためには、システム全体のシンプル化とクライアントとのインターフェースの洗練がまだ必要であるが、考え方やシステムの完成度で、参考になる点も少なくないものと思われる。

そういった面も含めてシステムの改造と全体との整合性をもうしばらく続けて行きたいと思う。

6. まとめ

2002年に発足した産業論文システムはSICEの特長ある論文投稿システムとして定着し、すでに60件の採用論文がある。またその委員会をITベースで管理する試みもいくつかの変遷を経て完成の域に近付きつつある。クライアント(産業論文委員会委員)全員が自立的に本システムを活用するという面では十分とは言えないが、委員会活動のIT化という面では十分に先鞭をつけたと考える。

おりしも学会活動全体のIT化が着々と併行して進められており、産業論文そのもののより活性化とともに、学会活動のより進んだ透明化や効率化に寄与していきたい。

謝 辞

先ず、この5月に急逝されました大前先生に謹んで哀悼の意を表します。先生は本委員会の委員としてだけでなく、2006年には委員長としてその運営と発展に多大な尽力をされました。

2002年の委員会発足およびそのシステム作成に寄与された、新、森本、佐藤、小西委員に心より感謝いたします。さらに委員長として本委員会の発展に尽くされた伊藤、青島、森委員に御礼を申し上げます。本産業論文管理システムの作成に有益な助言を頂いた寺野委員、またサーバーの提供や環境作りに絶大なご協力をいただいた学会ネット(株)の大塚さまと片野さま、そして日ごろの運営を支えて頂いているSICE事務局の島貫事務局長、並木次長、浅野氏、田中氏に深甚なる感謝を申し上げます。

【参考文献】

- 1) 新 誠一, 計測自動制御学会論文集委員会だより, 「計測と制御」, 41-3 (2002)
- 2) 計測自動制御学会 産業論文集委員会, 計測自動制御学会産業論文について, 同委員会Home Page, (2002) <http://srv01.sice.or.jp/~ia-j/about.html>
- 3) SICE産業論文委員会, 「SICE産業論文管理システム 「オンライン運用」操作説明書(改11)」, (2007),

委員会メンバーは下記よりダウンロード可能
(アカウントとパスワード必要)
<http://211.10.4.181/>

- 4) Takao TERANO, Yukichi OTSUKA, Masashi KUGAWA, Setsuya KURAHASHI, "Development of PANGEA and SICE Academic Activity Support", SICE2007, Paper Number 549, (2007予定)

参考資料 I

計測自動制御学会産業論文について

目的

電子ジャーナルという特徴を活かし、先進的かつ査読期間を短縮する論文誌とします。

電子ジャーナルの特徴

- カラーを活かせます。
- Wordを用いることにより、音声、動画などのオブジェクトを利用した論文を作成できます。
- 論文中に URL を書いてリンクをはれます。
- 著作権は学会に所属します。無断利用を禁止します。

購読者サービス

- 購読料は当面無料とし、誰でも、論文掲載のページを閲覧できます。
- 投稿された論文は、ある程度まとめて、CD-ROM を作成し、SICE で永久保存します。また、コピーを 1000 円程度で購読者を中心に販売致します。

査読

- 査読は Associate Editor 制で行ないます。
- 事務局、委員長、Associate Editor(AE)、査読者、著者間の通信は電子メールで行ないます。
- 事務局、委員長は投稿された論文を AE に転送(AE の負荷の管理)します。
- AE が査読者を選定、期限内に事務局、委員長に査読結果を返送します。
- 事務局、委員長は著者に査読結果を通知します。
- 査読者と投稿者とのやり取りは AE を介して行います。
- 査読は 1 回で採録・不採録を決定します。
- 査読者は修正結果を見ません。
- 修正を必要とする採録の場合、AE が修正内容を確認します。
- 不採録の場合、その理由の明示と再投稿推薦の可否を決定します。(査読者→AE→事務局&委員長→著者)
- 査読期間は 2 週間から 1 ヶ月とし、投稿後 1 ヶ月半で採否決定通知を目標とします。
- 基本的に照会はありません。
- 再投稿期限は半年以内とします。
- 投稿日は事務局が受け付けた時とし、time stamp を残します。
- 論文の書き方フォーマットは現在の論文誌にならいます。

評価の尺度

- 論文評価の尺度を産業における有用性、および、新規性とします。
- 加えて、客観性(論理性および明解性)を評価の尺度とします。
- 特許出願は有用性の観点から評価します。

参考資料 II (査読管理システムデータ出力例 I)

SICE産業論文 掲載論文一覧 2007/05/01 現在

- **6巻 05号** 論文: 高橋正和(島根大学 総合理工学部 数理・情報システム学科、ギラクシー・エクスプレス)、斎藤達也(筑波大学 大学院 経営システム科学専攻)、福江義則(徳島大学 大学院 工学研究科 情報システム工学専攻)、津田和彦(筑波大学 大学院 経営システム科学専攻) 「システム提案書記載のキーワードを用いた小規模事務処理システム開発工数見積りの一手法」 分野:C:システム・情報 応用分野:6:情報通信、情報処理、計算機 受付:2006/11/09 掲載:2007/04/12 PDF 256kbyte

- **6巻 04号** 論文: 中田成幸、林弘能、星島一輝、土井恭二、木村憲明(三井造船株) 「蛍光ダイナミクス情報を利用したフローサイトメトリーによるFRET検出」 分野:A:計測 応用分野:8:医療、福祉 受付:2006/11/01 掲載:2007/04/10 Microsoft Word 4. 7MB
- **6巻 03号** 論文: 尾崎賢二、飯田亮次、曾我一利、上野泰弘、(以上川重防炎工業(株)) 「国産CU人工呼吸器の開発と制御技術 -自発呼吸肺シミュレータ“LUNGOO”の開発-」 分野:D: System Integration 応用分野:8:医療、福祉 受付:2006/04/24 掲載:2007/04/03 PDF
- **6巻 02号** 論文: 里永 憲昭(昭和エンジニアリング株)、日高 良輔(昭和エンジニアリング株)、山路 信之(昭和エンジニアリング株)、陳山 鵬(三重大学大学院) 「AEと油分析による回転機械設備診断法および潤滑油改良による回転機械設備の運転周期延長法」 分野:A:計測 応用分野:11:エンジニアリング、保全 受付:2006/10/24 掲載:2007/03/02 Microsoft Word 1209KB
- **6巻 01号** 論文: 長縄 明大(秋田大学)、藤枝 昌史(株式会社ロジックデザイン)、田中 幹也(山口大学)、岡 正人(宇部高専)、若佐 裕治(山口大学) 「NN併用型2自由度MRACSIに基づく超音波モータの位置制御」 分野:B:制御 応用分野:4:電子機器、計測、計装、制御機器 受付:2006/10/05 掲載:2007/03/02 PDF 423KB
- **5巻 13号** 論文: 千葉 龍介(東京大学)、藤田武久(トヨタ自動車株式会社)、太田順(東京大学)、新井民夫(東京大学)、植山剛(株式会社デンソーウェブ) 「6自由度マニピュレータを用いたパレタイジング作業のタクトタイムマップによる環境整備」 分野:C:システム・情報 応用分野:2:産業機械、ロボット、精密機械 受付:2006/06/19 掲載:2007/01/19 PDF 801KB
- **5巻 12号** 論文: 三笠 哲郎(三井化学)、陳山 鵬(三重大学) 「多変量統計解析による回転機械の状態判定基準値の決定法」 分野:A:計測 応用分野:1:装置産業、鉄、金属、石油、化学、紙、医薬 受付:2006/08/22 掲載:2006/10/31 Microsoft Word 657KB
- **5巻 11号** 論文: 苅北一朗(東レエンジニアリング株式会社) 前田浩一(立命館大学 理工学部) 「ガンリタイプ精密テーブルの精密速度制御について」 分野:B:制御 応用分野:2:産業機械、ロボット、精密機械 受付:2006/04/14 掲載:2006/09/08
- **5巻 10号** 論文: 山田宗男、谷寄徹也、上田浩次(名古屋電機工業株式会社) 宮田康史(名古屋工業研究所) 安川 博(愛知県立大学) 「路面上に残留する凍結抑制剤濃度の非接触検出手法に関する検討」 分野:A:計測 応用分野:12:その他 受付:2006/03/13 掲載:2006/08/23 PDF 760KB
- **5巻 09号** 論文: 大野 敬太郎(東大)、原 辰次(東大) 「A Temperature-Dependent Multi-Rate Robust Controller for Hard Disk Drives」 分野:B:制御 応用分野:4:電子機器、計測、計装、制御機器 受付:2006/02/17 掲載:2006/08/11 PDF 904KB
- **5巻 08号** 論文: 横山 知章(東京ガス(株))、王 涛(東京工業大学)、香川 利春(東京工業大学) 「ガス減圧機構直後における圧縮性流体の減速流れの圧力脈動」 分野:C:システム・情報 応用分野:1:装置産業、鉄、金属、石油、化学、紙、医薬 受付:2006/03/13 掲載:2006/08/21
- **5巻 07号** 論文: 長縄 明大(秋田大学)、関 健史(秋田大学)、秋山 美展(秋田県総合食品研究所)、安田 基樹(日本精機)、佐々木 善幸(日本精機)、渡辺 健吾(日本精機) 「シユール加熱技術を応用した清酒殺菌システムの2自由度制御」 分野:B:制御 応用分野:12:その他 受付:2005/11/10 掲載:2006/08/28 PDF 628KB
- **5巻 06号** 論文: 島川聡(信州大学院)、日向滋(信州大学)、鮑力民(信州大学)、渡辺義見(名古屋工業大学)、木嶋敬昌(日本スピンドル製造株式会社)、清水秀彦(東京特殊電線株式会社) 「光ファイバセンサによるバグフィルタの寿命予知」 分野:A:計測 応用分野:5:電力、エネルギー、環境・水処理 受付:2006/05/22 掲載:2006/08/11 PDF 470KB
- **5巻 05号** 論文: 安永 能子・太田 順・二階堂 諒(東京大学)・小林 豊和・伊藤 富男・東 俊光(村田機械(株))・田村 博文・秋吉 正 崇(村田システム) 「配送センターにおけるマテリアルフロー設計アルゴリズムの開発」 分野:C:システム・情報 応用分野:7:金融、流通 受付:2006/04/14 掲載:2006/06/26
- **5巻 04号** ショートペーパー: 坂本 憲昭(法政大学経済学部) 「音刺激によるカイワレ大根の生長促進について」 分野:C:システム・情報 応用分野:10:農業、漁業 受付:2006/02/14 掲載:2006/04/10
- **5巻 03号** 論文: 高橋 信輔(日立)、宮田 真(日立) 「Development of a Support Tool for Constructing an Analysis Model for a Stock Portfolio」 分野:C:システム・情報 応用分野:12:その他 受付:2005/03/02 掲載:2006/03/10 Microsoft Word 965
- **5巻 02号** 論文: 森山 峻 「石炭からのナフサ合成プロセスのための供給原料質量流量計」 分野:A:計測 応用分野:1:装置産業、鉄、金属、石油、化学、紙、医薬 受付:2005/05/26 掲載:2006/02/13 Microsoft Word 745KB
- **5巻 01号** 論文: 高木清志(産総研)、西郷宗玄(産総研) 「スマート構造物のクラック推定を伴う振動制御(ゲインスケジューリング制御系による実験的検証)」 分野:B:制御 応用分野:9:建築、土木、ビル、住宅 受付:2005/09/12 掲載:2006/01/20 PDF 1.48MB

● **4巻 16号** 論文: 野間 彰, 原田 朋弘(三菱重工業株式会社横浜研究所), 山下 一郎(三菱重工業株式会社広島研究所), 井上 敬太(三菱重工業株式会社横浜製作所)「サーモパイルを用いた波長式スラグ温度計の開発」 分野:A:計測 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2005/09/08 掲載:2005/12/28 PDF 1.39MB

● **4巻 15号** 論文: 川邊 武俊, ミシェル, メンズ, 城 新一郎(日産自動車株式会社)「時間軸変換によるトロイダル型無段変速機の変速比サーボ系の設計」 分野:B:制御 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2005.3.22 掲載:2005/10/18 PDF 453KB

● **4巻 14号** 論文: 星野 智史, 太田 順(東京大学), 篠崎 朗子, 橋本 英樹(三菱重工業株式会社)「自動コンテナターミナルにおける運用を考慮したAGV搬送システムの設計」 分野:C:システム・情報 応用分野:2:産業機械, ロボット, 精密機械 受付:2005/04/25 掲載:2005/10/14 PDF 430KB

● **4巻 13号** 論文: 小川 雅俊, 大見 晴俊(早稲田大学) 古賀 雅伸(九州工業大学) 伊藤 雅浩(新日本製鉄) 内田 健康(早稲田大学) 松崎 眞六(新日本製鉄) 田島 和典(日鉄北海道制御システム)「Javaによる高炉シミュレータと統合可視化」 分野:C:システム・情報 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2005/05/31 掲載:2005.10.18 PDF 715KB

● **4巻 12号** 論文: 染谷治志(日立製作所:14459), 森有一(日立製作所), 阿部正弘(日立製作所), 町田勇(日立オムロンターミナルソリューションズ), 長谷川篤(日立製作所), 吉江修(早稲田大学)「帳票のイメージデータと疎結合コンポーネント接続方式による銀行営業店後方事務処理システムの開発」 分野:C:システム・情報 応用分野:7:金融, 流通 受付:2005/05/12 掲載:2005/10/18 Microsoft Word 1.99MB

● **4巻 11号** 論文: 服部 義和(株豊田中央研究所) 鯉刈 健(トヨタ自動車株)「4輪制御駆動, ステア統合による車両運動最適制御」 分野:B:制御 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2005/05/13 掲載:2005.10.18 PDF 1.68MB

● **4巻 10号** 論文: 長谷川 勝(中部大学)「 γ -正実化問題と ε 1-修正則を用いたセンサレスバルブ制御誘導モータのロバスト適応制御」 分野:B:制御 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2005/03/09 掲載:2005/10/15

● **4巻 09号** 論文: 江口 元, 橋本 芳宏, 伊藤 利昭(名古屋工業大学 システムマネジメント工学科)「HA法を用いた化学プラントにおけるシステム化対象項目評価法」 分野:B:制御 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2005/02/10 掲載:2005/08/01

● **4巻 08号** 開発・技術ノート: Yongdong Tan, Xun Gui, Qingquan Qian(西南交通大学) Kinji Mori(東京工業大学)「Design Method for a Decentralized Control Platform with Dynamic Evolution Towards Railway Transportation System」 分野:D: System Integration 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2005/01/26 掲載:2005/07/15 PDF 49.7KB

● **4巻 07号** 論文: 椎橋 章夫(東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 Suica部)「ICカード乗車券システムにおける自立分散高速処理技術と, そのアプリケーション」 分野:C:システム・情報 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2005.3.22 掲載:2005/08/01 Microsoft Word 4.757kw

● **4巻 06号** 開発・技術ノート: 住田伸夫(新日本製鉄株)「鉄鋼プロセス制御におけるオープン系自律分散システムとその更新」 分野:D: System Integration 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2005/01/26 掲載:2005/07/15 Word 846KB

● **4巻 05号** 開発・技術ノート: 森 欣司(東京工業大学)「巻頭言「特集号 産業界における自律分散システムの新しい応用」」 分野:C:システム・情報 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2005/07/06 掲載:2005/08/01 Microsoft Word 36KB

● **4巻 04号** 論文: 佐々木博幸, 久保田謙, 渡辺一弘(創価大学工学部)「ハテロコア型光ファイバセンサを応用したマルチ環境モニタリングシステム」 分野:A:計測 応用分野:5:電力, エネルギー, 環境・水処理 受付:2005/02/25 掲載:2005/06/15 Microsoft Word 999KB

● **4巻 03号** 論文: 米沢 憲造(東芝), 和田 祐功(東芝), 花田 雄一(東芝), 西村 信孝(東芝)「ビル快適空調制御システムの開発と実用化」 分野:B:制御 応用分野:9:建築, 土木, ビル, 住宅 受付:2005/01/05 掲載:2005/06/15 PDF 1.04KB

● **4巻 02号** 論文: 吉田 雅俊(東北大学), 小尾 秀志(東北大学), Tipaya Leelakiatasakul(東北大学), 山下 善之(東北大学), 松本 繁(東北大学)「入出力線形化法を応用した熱交換器の適応型非線形モデル予測制御」 分野:B:制御 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2004/10/29 掲載:2005/03/04 PDF 155KB

● **4巻 01号** 論文: 星野智史・太田順(東京大学), 篠崎朗子・橋本英樹(三菱重工業株式会社)「待ち行列ネットワーク理論を用いたAGV搬送システムの最適設計」 分野:B:制御 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2004/11/22 掲載:2005/02/21 PDF 622KB

● **3巻 11号** 論文: 井上 春樹(日立エンジニアリング株) 佐々木 淳 米田 多江 船生 豊(岩手県立大学)「セルGA法と2-opt法を適用した大規模実時間配送計画システムの開発」 分野:C:システム・情報 応用分野:3:自動車, 鉄道, 輸送機械, 航空, 宇宙 受付:2004/08/12 掲載:2005/01/20 PDF 705KB

● **3巻 10号** 論文: 沈 澄, 寺嶋 一彦, 矢野 賢一(豊橋科技大), 鈴木健介(神鋼電

気株)「旋回クレーンの起伏・旋回・巻上げ同時動作による直線搬送方式での荷物の最短時間制御」 分野:B:制御 応用分野:2:産業機械, ロボット, 精密機械 受付:2004/09/01 掲載:2005/01/20 PDF 49.7KB

● **3巻 09号** 論文: 温井一光(東京工業大学大学院総合理工学研究所), 川嶋 健嗣(東京工業大学 精密工学研究所) 香川利春(東京工業大学 精密工学研究所 小宮勤一(工学院大学)「後流差圧検出ピトー管流量計の実用化」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004/06/09 掲載:2005/01/20 Word 873KB

● **3巻 08号** 論文: 野添悟史, 藤原敏光, 栗林秀成, 上田直理, 谷口勤オムロン(株)「熱式MEMSフローセンサの開発」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004/05/06 掲載:2005/01/20 Word 323KB

● **3巻 07号** 論文: 涌井徹也(早稲田大学), 橋詰匠(早稲田大学), 西島剛志(横河電機)「電子式バルブポジションに搭載する空気圧式調節弁のヒステリシス補償機能」 分野:B:制御 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004/05/06 掲載:2004/07/15 PDF 254KB

● **3巻 06号** 開発・技術ノート: 山根健治(宇部工業高等専門学校), 河野 進(三菱重工業株) 広島研究所) 田中正吾(山口大学工学部)「ダイナミクスモデルを考慮入れたコンテナクレーンの高精度位置姿勢制御に関する研究」 分野:B:制御 応用分野:2:産業機械, ロボット, 精密機械 受付:2004/04/09 掲載:2004/06/15 PDF 451KB

● **3巻 05号** 論文: 伊藤藤浩(CDK株式会社)「超小型・高速応答の流量センサの開発」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004.4.1 掲載:2004/06/15 Word 453KB

● **3巻 04号** 論文: 小田清志(矢崎総業株), 岡本康広(矢崎総業株), 山浦路明(矢崎計器株)「サーモパイル式MEMSフローセンサの特性とそれを用いた流量計」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004/02/23 掲載:2004/06/15 PDF 174KB

● **3巻 03号** 論文: 原 仁*, 鈴木 健太郎*, 岸 直輝*, 野呂 誠*, 渡辺 哲也*, 岩岡 秀人**(*横河電機株) 技術開発本部先端技術研究所MEMS研究室, **横河電機株) 技術開発本部技術連携推進センター)「MEMS型ファブリケーションを用いたCO₂/H₂Oガスセンサ」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2004/01/28 掲載:2004/06/07 PDF 417KB

● **3巻 02号** 論文: 遠藤 明(岩手大学大学院連合農学研究所)・原 道宏(岩手大学農学部)「QPHPセンサを用いた不飽和水分状態における多重傾斜成層砂中の流体速度ベクトルと熱物性の同時計測 - 農地土壌・都市地盤中における汚染物質の移動制御・モニタリングをめざして -」 分野:A:計測 応用分野:9:建築, 土木, ビル, 住宅 受付:2003/11/04 掲載:2004/01/15 PDF 676KB

● **3巻 01号** 論文: 高津春雄(横河電機), 野崎貴之(テクノシステム九州), 岡田賢司(テクノシステム九州)「Application of Virtual Simulation Environment to Fluid Catalytic Cracking Unit Control」 分野:C:システム・情報 応用分野:1:装置産業, 鉄, 金属, 石油, 化学, 紙, 医薬 受付:2003/07/07 掲載:2003/12/08 PDF 419KB

● **2巻 13号** 開発・技術ノート: 笠井浩 (経済産業省)「ニューラルネットワークを利用した医療機器産業の開発実態の問題点分析」 分野:C:システム・情報 応用分野:8:医療, 福祉 受付:2003/10/20 掲載:2003/11/21 Word 266KB

● **2巻 12号** 論文: 遠藤 明(岩手大学大学院連合農学研究所)・原 道宏(岩手大学農学部)「五極子熱線/ルイス法を用いた2次元流れの場における砂質土壌の熱前線伝播速度ベクトルおよび熱特性の同時計測法およびその応用」 分野:A:計測 応用分野:9:建築, 土木, ビル, 住宅 受付:2003/07/22 掲載:2003/10/22 Word 994KB

● **2巻 11号** 開発・技術ノート: 坂本 憲昭(職業能力開発総合大校)「PLCプログラミング言語ST (IEC61131-3)によるスライディングモード制御理論の実装について」 分野:B:制御 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2003/08/07 掲載:2003/10/17 Word 1738KB

● **2巻 10号** 論文: 佐々木清吾(防衛大校)「直流側電圧の垂下特性を考慮したPWMインバータの動的モデルと電流追従制御」 分野:B:制御 応用分野:4:電子機器, 計測, 計装, 制御機器 受付:2003/05/28 掲載:2003/10/15 PDF 440KB

● **2巻 09号** 論文: 小松原 彰(関西電力) 茂木良平, 小沢金吾, 鈴木由起彦, 若泉貴之(トキメック)「オリマルジョン漏洩検知装置の開発」 分野:A:計測 応用分野:5:電力, エネルギー, 環境・水処理 受付:2003/04/01 掲載:2003/10/15 Microsoft Word 3860KB

● **2巻 08号** 論文: 青島 伸治(筑波大学)「シングルチップマイクロコンピュータと信号圧縮法によるインパルス応答計測装置の製作」 分野:A:計測 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2003/05/28 掲載:2003/07/24 PDF 400KB

● **2巻 07号** 論文: 岸野清孝, 石田 康, 伏木 匠, 権守直彦(日立製作所)「トラック運行管理ASPIによる業務向け交通情報サービスの開発」 分野:C:システム・情報 応用分野:7:金融, 流通 受付:2003/03/17 掲載:2003/07/25 PDF 586KB

● **2巻 06号** 論文: 鮫嶋茂稔, 河野克己, 足達芳昭(日立製作所), 松野 強(日立ハイコス), 新 誠一(東京大学)「構造化データフィールドアーキテクチャと情報制御システムの稼働中移行」 分野:D: System Integration 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2003/05/06 掲載:2003/06/10 Microsoft Word 677KB

● **2巻 05号** 論文: 涌井徹也, 橋詰 匠(早大), 西島剛志, 石井 実(横河電

機)「ヒステリシスの大きな空気圧式調節弁に使用する電子式ポジショナの高性能化」
分野:B:制御 応用分野:4:電子機器,計測,計装,制御機器 受付:2002/11/01
掲載:2003/06/10 PDF 1,326KB

● 2巻 04号 論文: 太田 順, 金子慎一郎, 新井民夫, 前田雄介, 杉 正夫, 千葉龍介(東京大)「Nelder-Mead法条件緩和アルゴリズムによるマルチパラメータのチューニング法」 分野:B:制御 応用分野:2:産業機械,ロボット,精密機械 受付:2003/01/24 掲載:2003/05/10 PDF 167KB

● 2巻 03号 論文: 大坊真洋(岩手大), 菊地利雄(岩手県工技センタ)「レーザーSQUID顕微鏡の開発と半導体検査への応用」 分野:A:計測 応用分野:4:電子機器,計測,計装,制御機器 受付:2003/01/29 掲載:2003/05/10 PDF 779KB

● 2巻 02号 論文: 今村 孝, 寺嶋一彦, 赤峰宏平, 小笠原慎一(豊橋技科大), 竹本秀博(三菱レイコン)「ヘリカル巻きフィラメントワインディングプロセスにおけるモデリングと巻取り角度・張力制御系の構築」 分野:B:制御 応用分野:1:装置産業,鉄,金属,石油,化学,紙,医薬 受付:2002/11/08 掲載:2003/02/10 Word 547KB

● 2巻 01号 論文: 杜 立群, 権 貴龍, 新井史人, 福田敏男(名大), 糸魚川貢一, 塚原靖典(東海理化)「マイクロ接触センサレイの構造設計」 分野:A:計測 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2002/10/30 掲載:2003/06/10 PDF 235KB

● 1巻 02号 論文: 鮫嶋茂稔, 河野克己, 足達芳昭(日立), 新 誠一(東大)「時空間型データフィールドアーキテクチャと情報制御システムの稼働中拡張」 分野:D: System Integration 応用分野:0:基礎・理論・一般 受付:2002/01/07 掲載:2002/06/10 Word 125KB

● 1巻 01号 論文: 松田真司(横河電子), 大津皓平(東商船大), 千種成友, 小原裕喜(横河電子)「パッチ外乱適応舵減揺型オートパイロット」 分野:A:計測 応用分野:3:自動車,鉄道,輸送機械,航空,宇宙 受付:2002/03/01 掲載:2002/06/10 Word 980KB

参 考 資 料 Ⅲ (査読管理システムデータ出力例2)

SICE産業論文 諸データ 2007/05/01 現在

●論文数 (掲載数と採録数の差は「掲載可」であるが「要修正」である案件)
通年: 投稿数 116 掲載数 60 (52.1%) (採録数 66 (56.4%), 返却数 28 (23.9%), 再投稿推奨数 19 (16.2%), 著者取下げ数 1 (0.9%))

02年: 投稿数 7 掲載数 5 (採録数 6 返却数 0 再投稿推奨数 2 著者取下げ数 0)

03年: 投稿数 20 掲載数 12 (採録数 12 返却数 5 再投稿推奨数 3 著者取下げ数 0)

04年: 投稿数 23 掲載数 12 (採録数 12 返却数 8 再投稿推奨数 3 著者取下げ数 0)

05年: 投稿数 31 掲載数 17 (採録数 17 返却数 11 再投稿推奨数 3 著者取下げ数 0)

06年: 投稿数 27 掲載数 14 (採録数 16 返却数 3 再投稿推奨数 7 著者取下げ数 1)

07年: 投稿数 8 掲載数 0 (採録数 3 返却数 1 再投稿推奨数 1 著者取下げ数 0)

●仕掛り中(一次査読処理中(委員長一次判定未承認))案件: 4件

***** 内容省略 *****

●仕掛り中2(「著者修正中」等)案件: 4件

***** 内容省略 *****

●受付論文分野別仕分け A:計測 32件, B:制御 45件, C:システム・情報 25件, D:System Integration 15件

●受付論文応用分野別仕分け

- 0:基礎・理論・一般 11件
- 1:装置産業,鉄,金属,石油,化学,紙,医薬 19件
- 2:産業機械,ロボット,精密機械 15件
- 3:自動車,鉄道,輸送機械,航空,宇宙 18件
- 4:電子機器,計測,計装,制御機器 16件
- 5:電力,エネルギー,環境・水処理 7件
- 6:情報通信,情報処理,計算機 1件
- 7:金融,流通 4件
- 8:医療,福祉 10件
- 9:建築,土木,ビル,住宅 4件
- 10:農業,漁業 1件
- 11:エンジニアリング,保全 5件
- 12:その他 5件

●全投稿論文処理日数: 委員会処理 113±71, AE処理 54±46
全「掲載」論文処理日数: 委員会処理 132±72, AE処理 55±47
全「返却」論文処理日数: 委員会処理 74±62, AE処理 60±37
全「再投稿推奨」論文処理日数: 委員会処理 72±21, AE処理 48±21

【著者紹介】

岩村 忠昭 (正会員)



1966年横浜国立大学工学部 機械工学科卒業。68年東京工業大学工学部 制御工学科 修士課程卒業。68年川崎製鉄㈱入社。千葉,水島製鉄所で製鉄所計測・制御関係の業務に従事。92年水島製鉄所プロセス開発部長。

94年 本社プロセス技術部長(理事)。97年川鉄情報システム㈱取締役。98年川鉄電設㈱取締役。2000年同常務取締役プラント事業本部長。2002年退職(嘱託)。

2004年 東京工業大学 大学院 イノベーションマネジメント研究科産学官連携研究員。

97年~99年(社)計測自動制御学会 事業委員長(理事)。2004年同 産業論文委員長。